

特定非営利活動法人(NPO法人)

【通称：AAC21】

21世紀のカンボジアを支援する会

ASSOCIATION OF AID FOR CAMBODIA IN 21 CENTURY

【東京本部】〒176-0011 東京都練馬区豊玉上 2-25-7-203
TEL 03-3991-2854 FAX 03-3557-1213
E-mail: info@aac21.net【カンボジア事務所】Phom Thmey, Sangkat Rokathom, Krong Chbamon, Komponspeu.
Kingdom of Cambodia
電話 (855) 12-737-559 (855) 78-784-808

【ホームページ】AAC21 検索

【公式ブログ】メコンの風に吹かれて 検索

【Facebook ページ】https://www.facebook.com/aac21.net 検索

会報

幸福を、平和を、豊かな心を、
カンボジアの友と分かち合おう

アンコールワット

発行日 2014年（平成26年）5月1日

第76号

【年6回発行】
【奇数月発行】

右から4人目がウォン・ソート新大臣

昨年のカンボジア政府内異動で、本会を管轄する「福祉・退役軍人・青年省」の大臣が交代したため三月十九日、根岸理事長らが省庁を訪れ、ウォン・ソート新大臣を表敬訪問した。本会の現地アドヴァイザーでもある、シアン・ブン・レン内務省大臣も同行してくれた。

ウォン・ソート新大臣は前職が労働省大臣で、カンボジア下院国会議長を務める人だ。

「福祉・退役軍人・青年省」新大臣を表敬訪問

るヘン・サムリン氏の義理の弟にあたる。ヘン・サムリン氏といえば、七十九年にポルポト政権を倒してヘン・サムリン政権を樹立した歴史上の人物。フンセン首相と二人三脚で、現在まで政権の座にあらる人だ。

ウォン・ソート新大臣は、本会の活動の中で特に「クメール教育里親基金」の活動に関心を寄せられ、政府としても応援するので今後も活動の範囲を拡充してほしいと要請があった。

表敬訪問に内務省大臣が同行したこともあり、カンボジアのテレビ局が取材し、夕方のニュースにその様子が放映された。

カンボジアでは沢山のNGO団体が活動しているが、誰もが大臣に会うことができる訳ではない。積み上げた活動実績と政府との信頼関係が肝要。会員の皆さんの真摯な支援活動をカンボジア政府が高く評価してくれている証でもある。

ソカーオン小学校の新校舎建設着工式行なわれる

佐々木テルさん（宮城県在住・個人会員）による資金協力のもと、カンボジアの小学校に新校舎を建設することが決まり三月十一日、その着工式が行なわれた。

新校舎を建設することになったのは、ソカーオン小学校（コンポンチュナン県タックポー郡オンチュエーニユ村）、生徒数、百人ほどの小さな小学校だ。



村人も沢山集まった着工式

現在同校には、老朽化した木造の校舎があるだけで、数年前から新校舎建設の要望が本会に出されていた。

佐々木テルさんのご主人（佐々木二千六さん）は一年前に逝去されたが、生前からのご主人の希望もあり、貧しい農村の小学校に校舎を贈ることとなった。



シャワーで生徒の髪を洗う平古場理事

第二十六回カンボジアふれあいの旅に五人参加

このたびの「カンボジアふれあいの旅」は催行最小人数（十人）に満たなかったため、会員さん参加の旅は中止、役員中心に井戸贈呈式（遊具贈呈式）、里子訪問、夢ホーム訪問など、観光要素を抜いて実施した。

三月五日に出発、十一日に帰国したが、三人が延泊し十三日に帰国した。根岸理事長はその後カンボジアに残って活動し、二十一日に帰国した。

騒音と砂ぼこりの国、カンボジアから

NPO法人 21世紀のカンボジアを支援する会 理事長 根岸 恒次

滞在した。五日頃はさほど暑さを感じなかったが、帰る頃には猛暑日が連続した。この国に春はなく、一気に夏へと季節が巡る。

三月のカンボジアは乾季の真っ只中、滞在中一滴の雨も降らなかった。

そのため、未舗装道路では大型車が砂ぼこりをあげて走行、沿道の民家は大変な被害を被っていた。

私も前回の訪問で喉を傷めて苦労した経験を生かし、今回はマスクを持参して車中に入ってくる砂ぼこりから身を守った。おかげで今の所、喉の調子は良好だ。



事務所前の道路で行なわれた結婚パーティー

路で結婚パーティーをやるのがこの国のスタイルだ。

無謀運転もあとを絶たない。プノンペンからシエムリアップへ行く途中、夜行バスが路肩に横転していた。居眠り運転か。滞在中、二度も追突された。たいしたことはなかったが、脇見運転の仕業だ。この国に歩道はなく、交差点も車優先なので、うかうか歩けない。

そんなカンボジアだが、なぜか日本人には優しい。日本の官民あげての支援の多さについて、カンボジア国民はよく理解している。

この国で、日本は産業面で中・韓に押されているが、国際協力の面では追随を許さない。自信を持つとう。

カンボジアの子どもたちをサポートしてください



里親さん、ありがとう

クメール教育里親会員募集

長かった内戦が終わって平和になったカンボジアですが、国の復興はなかなか進まず、大多数の人々は貧困に苦しんでいます。特に農村では、貧しかったり親を亡くしたりして学校へ行けない子どもや、学校へ行けても途中でやめてしまう子どもが後を断ちません。

本会では、農村の子どもたちが学校へ行けるようにと、教育資金をサポートしてくれる里親さんを募集しております。

思えば69年前、敗戦して焦土となった日本を救ってくれたのは、諸外国からの援助でした。カンボジアも食料援助をしてくださいました。日本の子どもたちもその恩恵を受け学校に行けるようになりました。豊かになった私たちが、今度は困っているアジアの子ども達を支援する番です。

※お友達グループや職場など、グループ単位でサポートしていただくこともできます。

【年会費】：子ども1人につき、1年間3万円。一括納入、分割納入（毎月、年3回、年2回）のどちらでも可。所定の郵便振替用紙を使ってお振込みください。

【会費の使途】：年会費の3分の1が、学用品、制服、靴などの購入、学校への納付金、お小遣い、生活資金など、子どものために使われます。年会費の3分の2が、夢ホームの運営、現地スタッフの給料・ガソリン代・事務所家賃など現地でかかる経費、通信費・印刷費・人件費など東京の本部でかかる経費として使われます。

【サポート期間】：最低1年間単位ですが、少なくとも子どもが学校を卒業するまでの期間、サポートしていただけたら幸いです。里子からは年2回、近況を報せる手紙（日本語に翻訳）と写真が届きます。

【里子との交流】：里親さんからの手紙、プレゼントも里子に届けることができ、心あたたまる交流ができます。

本会は皆様からの寄付金のみで活動しているNPO法人であり、現在公的資金（税金）は一切いただいておりません。

神戸ユネスコ協会がカンボジア訪問



神戸ユネスコ協会の皆さん

三月九日～十四日、神戸ユネスコ協会（神戸市、法人会員）一行（七人）がカンボジアを訪問、ボランティア活動と観光を楽しんだ。

十日、根岸理事長の案内でシェムリアップ県のトンレサップ湖に浮かぶ水上生活村（メイチュレイ小学校・生徒数〇二百六十人）を訪問、学用品を配布して子どもたちと交流した。子どもたちが住む水上の家も見学した。

十一日は、一昨年校舎を寄贈した「ストックアイトロミヤ小学校」（生徒数〇二百二十人）を訪問、サッカーゴール一式とサッカーボール（三個）を寄贈した。早速、サッカーのミニゲームを行なった。

十二日には夢ホームを訪問、お米を寄贈して、久しぶりに再会した子どもたちと楽しく歓談した。その後一行はベトナムで一泊し、十四日に帰国した。



受講生たちと（左が榎戸さん）

日本宝飾クラフト学院（本校〇東京都台東区）の専任講師で、自宅にも工房（榎戸彫金スタジオ）を持つ榎戸徹彦さん（横浜市、里親会員）が二〇一一年五月に「夢工房」（夢ホーム内）を開設し、夢ホームに入園している子や村に住む子どもたちを対象に、アクセサリー作りの職業訓練指導を隔月に実施している。三月十八日～二十一日、第十六回目の講習会が行なわれた。

五人の生徒たちが、一月に作り始めた遺跡のレリーフ（動物）をモチーフにしたアクセサリーを作り終えた。（一人はイヤリング、四人がペンダント）シェムリアップにある雑貨店（クマエ・ユーン）にて販売してもらう。生徒たちのスキルは確実に上がっている。

次回（第十七回）の講習会は、五月二十七日～三十日を予定。

第十六回「鑄造によるアクセサリー作り技術講習会」（夢ホーム）

3月はカンボジアの小学校と村に6基の井戸が完成

3月7日、ふれあいの旅参加者が出席し、武藤和義・康代さん夫妻（長崎県長与町、里親会員）及び角田勲・由美子さん夫妻（東京都練馬区、里親会員）が寄贈した井戸贈呈式を、二つの小学校で行なった。参加者の平古場正行さん（横浜市、理事）が生徒たちの髪を洗い、生徒たちは歓声をあげていた。

3月13日、根岸理事長と現地スタッフが出席し、松原睦美さん（函館市、個人会員）が寄贈した二つの井戸贈呈式を、小学校と村で行なった。



きれいな水で手を洗う子どもたち

3月14日、根岸理事長と現地スタッフが出席し、アンコールワットのあるシェムリアップの二つの小学校にて、竜ヶ崎ロータリー・クラブ（茨城県竜ヶ崎市、法人会員）及び根谷崎百合子さん（神奈川県藤沢市、里親会員）が寄贈した井戸贈呈式を行なった。

3月に完成した井戸の内訳			
寄贈者名	小学校名・村名	生徒数・村民数	所在地
① 根谷崎百合子 様	コークトラッチ小学校	250人	シェムリアップ県プサート(コン郡)
② 竜ヶ崎ロータリー・クラブ 様	ワットクサッチ小学校	170人	シェムリアップ県プサート(コン郡)
③ 角田勲・由美子 様	ヴィヒアルーン小学校	208人	コンボンチュナン県ローアパイ郡
④ 武藤和義・康代 様	カンノー・フセソ・フレイクメー別荘	430人	コンボンチュナン県ローアパイ郡
⑤ 松原 睦美 様	プナウ小学校	640人	コンボンチュナム県バーティ郡
⑥ 松原 睦美 様	ジョン村	約2,000人	コンボンチュナム県バーティ郡

※通算の井戸設置数（2003年～）＝245基（3月現在）



5月に完成予定の新校舎

「世界の恵まれない地域に小学校を作る会」（新潟市秋葉区・石川達夫代表）、及び「新潟発！カンボジア支援プロジェクト730」（新潟市中央区・三林けい子代表）、本会などによる資金協力により、一月十四日に着工した「トントロラッチ小学校」（コンボンチュナム県、生徒数〇二百三十人）の新校舎建設作業は順調に進んでおり、五月中旬に完成の予定。

現在、カンボジアは乾季で雨が降らないため、建設工事が予定より早く進んでいる。

七月に開催予定の「第二十七回カンボジアふれあいの旅」の中で、贈呈式（開校式）を予定している。

トントロラッチ小学校の新校舎建設工事が順調に進む



三月九日～二十一日、宮川公子さん（宮城県石巻市、里親会員）がカンボジアを訪問、小学校と障がい児の学校で鍵盤ハーモニカ（ピアノカ）の奏法を指導した。滞在中は夢ホームでも、音楽全般の指導をしてくれた。

今回は、視覚障がい児が通う学校（クルオサータマイ・プノンペン市内）を初訪問、十人の生徒たちを音楽指導した。元音楽教師の宮川さんは、過去の経験を生かし、目の不自由な子どもたちを熱心に指導してくれた。

今回は七月にカンボジア訪問を予定している。

宮川公子さんが二つの学校で音楽指導



ブランコで遊ぶ子どもたち

三月六日、カンボジアふれあいの旅一行が「トロバントム小学校」（コンボンチュナム県）を訪問、このほど石川桂さん（愛知県安城市、理事）が寄贈した遊具（滑り台、ブランコ、回転遊具）の贈呈式を行なった。同校は、一昨年に石川さんが校舎を寄贈、昨年は図書館を寄贈した小学校で、毎年大きな贈り物を受けている子どもたちは歓声を上げて喜んでいった。

贈呈式後、恒例となった村人との懇談会が図書館内で行なわれ、意見交換した。

石川桂さんが遊具を寄贈

児童養護施設《夢ホーム》日記

児童養護施設《夢ホーム》は両親や片親を亡くしたり、親がいても家庭的に恵まれない子どもたちの生活の場として、会員の皆様のご厚意により、2009年1月に建物完成、同年3月に開園しました。現在、5歳から18歳までの17人の子どもたちが入園、近所の小・中・高等学校へ通学しています。



ふれあいの旅の皆さんと

●寄贈品（お米）＝平古場正行、及川英博、上山陽子、宮川公子、丸山和男、神戸ユネスコ協会、國學院大學国際協力サークル～優志～（敬称略）

来訪、お土産をありがとうございました。

3月も大勢の皆さんが訪れ、またお米などのプレゼントを沢山いただきました。ありがとうございました。

●3月の来訪者＝カンボジアふれあいの旅参加者、神戸ユネスコ協会、國學院大學国際協力サークル～優志～、宮川公子、榎戸徹彦（敬称略）



サンダルをもらい嬉しい様子

三月十四日、シェムリアップ県、ワットクサッチ小学校で「竜ヶ崎ロータリー・クラブ」（茨城県竜ヶ崎市、法人会員）が寄贈した井戸の贈呈式があり、根岸理事長と現地スタッフが出席した。また全生徒に一足ずつ行き渡るようにと、サンダル（百七十分）が寄贈された。

井戸贈呈式に参加した生徒たちの足を見れば、半数以上が裸足。タイムリーな支援に子どもたちは喜んでいった。

同クラブは、毎年一基以上の井戸をシェムリアップ県内に寄贈している。

竜ヶ崎ロータリー・クラブ 小学校へ井戸とサンダル寄贈



夢ホームの子どもたちと

三月三日～十日、國學院大學国際協力サークル「優志」（本校〇東京都渋谷区、里親会員）の皆さん（十一人）がカンボジアを訪問、八日には終日夢ホームに滞在し、子どもたちと交流した。

今回の訪問は調査活動（インタビュー）が中心で、昨年井戸を寄贈した村を訪問して村長さんや住民にインタビューしたり、コンボンヌプー県の福祉局長さんに会って現状をうかがった。

今年の九月にも再訪を予定している。

國學院大學国際協力サークル「優志」がカンボジア訪問



トンレサップ湖で遊ぶ子どもたち

水上生活村を訪問していたら、子どもがボートに乗って子魚を獲っていた。今晩のおかずにするのだから、のどかで心安まるシーンだった。



カンボジアの法要

村で井戸贈呈式をしていると大音量で読経が流れてきた。行ってみると、僧侶を中心とした、法要の最中だった。日本と同じで、一年忌、三年忌、七年忌の法要があるという。



日本の援助でプノンペン市内の下水道工事進む

プノンペン市内を走行中、至る所で日本の援助による下水道工事が行なわれていた。インフラ整備は大切な公共事業、私たちの支払う税金が途上国で有効に使われることは大いに歓迎すべきこと。



すぐに壊れる小規模井戸

小学校を巡っていると、立ち枯れた井戸をよく見かける。先生に聞けば、最初から水がでなかった井戸もあるという。掘る深さはおよそ十メートル前後、ポンプも小さく一度壊れると修理不能だそうだ。「安物買いの銭失い」とは正にこのこと、寄贈する前に念入りなサーチが必要だ。



クメール教育里親基金活動レポート

本会では、病気や事故、親の離婚などにより両親や片親を失い、経済的に困窮しているカンボジアの子ど



里子に初対面した及川英博さん

もたちが安心して学校に行けるようにと、二〇〇三年に「クメール教育里親基金」を創設した。現在、多くの教育里親さんに支えられ、約三百五十人の子どもたちを教育支援している。

三月八日、ふれあいの旅に参加した三人の教育里親さんが支援する里子の家を訪問した。

特にこの時期、カンボジアでは主食のお米が不足しており、里親さんからお米のプレゼントをもらって安心して

国の発展に教育は欠かせない。一人でも多くの子どもたちが一日でも長く学校へ行けるよう、皆様の継続的な支援をお願いしたい。

里子家庭訪問記録

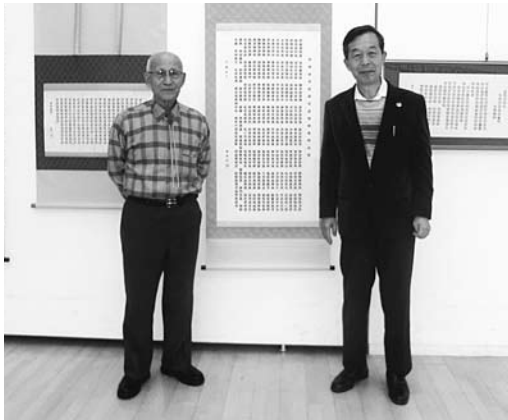
名前：ソコム・ポバー	学校名：ワトクダイ小学校
年齢：10歳	学年：小学校の5年生
性別：女の子	
住んでいる場所：コンボンスプー県 ウドン郡、 ヴィルボンコミュニティ	
学校までの所要時間：徒歩で15分	
好きな教科：国語（特に読解が好きです。）	
苦手な教科：算数（特に割り算の計算式を解くのが難しいです。）	
担任から一言：成績は、道徳A、学校の活動A、健康A、出席A	
家庭状況：3人の姉妹です。お姉さん1人、妹さん1人、ソコム・ポバーちゃんは第2子です。お父さんを亡くしています。お母さんがいます。現在、お母さんと3人の子供で暮らしています。	
一日の過ごし方：朝5時半頃に起きます。まず少し本を読みます。それから、家の掃除をしたり、お皿を洗ったりしています。朝食は6時半にします。朝食の後、身支度をして午前7時から11時まで学校に通っています。授業が終わってから、11時半頃に家に帰り、昼食をします。午後は家事の手伝いをします。夕食は6時半にしてお皿の片付けを手伝います。7時半に、本を読んだり、先生から出された宿題をしたりしてから9時半に寝ます。	
好きな遊び：ゴム飛びをするのが好きです。	
好きな食べ物：バナナ、マンゴスチン（果物）	
将来の夢：国語の先生です。	



左端がポバーちゃん

備考：ポバーちゃんはお父さんが死亡してから、お母さんと姉妹と一緒に暮らしています。隣の祖父母も毎日いろいろな仕事を手伝っています。祖父母は年をとっていますがまだ田植えをしています。自分たちの食べる分だけ、作ります。お爺さんの仕事はお坊さんを指導する先生です。給料が無くて、何かのお祭りがあったり、誰かに頼まれたとき、少しお金を貰います。最近、お母さんは縫製工場に働いています。朝6時に出て、夜8時くらいに帰ります。乗り合いバスで毎日行きます。縫製工場の給料が80ドルで、子供と祖父母にもあげます。担当者：ニョウ ピン（現地スタッフ）

石川桂さんが篆刻作品展を開催



作品展会場（左が石川桂さん）

三月十九日（二十三日、安城市民ギャラリーにて石川桂さん（愛知県安城市、理事）が篆刻作品展を開催、大勢の方々が鑑賞した。同会場内にカンボジアコーナーを設け、カンボジアにおける石川さんの活動ぶりを紹介、会報や募金箱も置いていただいた。

晩には同市内の日本料理店「一井」において懇談会が催され、三十人が出席した。本会からは根岸理事長始め五人の会員さんが出席、参加した皆さんと親交を深めた。

篠田朝隆さんの逝去に思う

もう十年も昔のことだが、「カンボジアふれあいの旅」は当時「カンボジア愛と感動の旅」と称し、旅行会社JTBの主催で実施していた。当時は参加を希望する人が多く、東京・虎ノ門にあるJTB本社にて、事前説明会を行なっていた。その説明会場に、遅れて入ってきた老人がいた。「道が分からなくて苦労した、案内の仕方が不親切だ」と、担当したJTB社員を叱っていた。勿論、私も平身低頭謝ったが、頑固でつつきにくそうな印象を受け、果たしていつまで会の活動に参加してくれるものだろうか、と、疑心暗鬼だった。

その後度々、カンボジアへの旅行に参加し、本会の雰囲気にも慣れたので、数年前に本会の理事を



新潟中越地震直後 篠田さんを見舞う（2004年10月 写真の中央が篠田さん）

清瀬市と江東区で写真展を開催（東京都内）

二月三日（十日、東京都清瀬市「クレアギャラリー」にて写真展「カンボジアの子どもたち」を開催した。また、二月十四日（十九日、東京都江東区「亀戸文化センター」にて同名の写真展を開催した。両会場ともに駅から近く、多くの皆さんが写真を鑑賞してくれた。

書き損じハガキ・未使用切手・商品券を お送りくださいませ

本会では、書き損じハガキ・未使用の切手・ビールやデパートの商品券を集め、活動資金にしております。皆様の家に眠っているものがございましたら、ご協力くださいますよう、よろしくお願い致します。普通郵便で事務局へお送りください。

送り先：〒176-0011
東京都練馬区豊玉上2-25-7-203 本会事務局へ

カンボジアミニニュース

現地で発行している新聞や情報誌から、カンボジアに関するニュースを紹介いたします。

トライアジアフロンペンFCに元Jリーガーが新加入

今年からカンボジア一部リーグに昇格する日系プロサッカークラブ「トライアジアフロンペンFC」に、元JリーガーのMF木原正和選手が新たに加入した。木原選手は過去にU-18日本代表として、またJ1リーグの大宮アルディージャでプレーした経歴を持つ。現在二十六歳で背番号は「50」をつける。フロンペンに日系企業が多く進出電力不足など課題も

ただし、カンボジア全体に比べると、小学校卒や未就学の人が多く、文字の読み書きや計算ができない人もいる。そこで同社は「就業前識字力養成学校」を設け、同社の他国工場にはない教育プログラムで人材教育している。

路線バスを走らせる社会実験行なわれる

カンボジアでインフラが最も良いとされるフロンペン経済特区（SSZ）は、フロンペン市内から十八キロメートルのところにある、物流はフロンペン港、シハヌーク港、フロンペン空港の三つを使う。日本では住友商事と同特区が販売提携しており、稼働している企業四十六社のうち日系企業が二十八社を占め、契約済みを含めると三十七社が入居。二〇一〇年のタイ大洪水などを機に進出が増えた。三年前までは縫製業が多かったが、最近では樹脂の射出成形を手掛ける企業も目立ってきたという。

カンボジアの首都フロンペンで、二月五日から三月四日までの一ヶ月間、路線バスを走らせる社会実験が行なわれた。フロンペンには多くの人を一度に運ぶ公共交通機関が存在せず、自家用車やバイク、座席付き車両をバイクで引っ張る「トゥクトゥク」などが人々の交通手段となっている。一方で近年、都市の拡大と車両の増加による交通渋滞が悪化し、対策が急務だ。

バスの実験は、フロンペン都庁、公共事業局、日本の国際協力機構（JICA）が連携して行なわれた。JICAが二〇一二年から一四年六月まで実施する「フロンペン都総合交通計画プロジェクト」の一環だ。

中野勝さんの著書をお分けいたします

このほど、本会の理事、中野勝さん（兵庫県宝塚市）が書籍を出版されました。中野さんの書籍「教育支援ボランティア」が、希望の方は事務局へご一報ください。（電話：ハガキ・メール・ファクスにて）（送料として二百円分の切手をご負担ください）

野さんの教育支援活動を中心に、カンボジアについてわかりやすく解説して

投稿

秘境の地

「モンドルキリ州」を訪ねて

中野 勝 (1)

一月のカンボジア訪問の合間を見て秘境の地「モンドルキリ州」を視察した。

早朝の七時半にホテルを出発、午後三時頃に着いたので、町の中心地から三キロメートルのモノロムの滝に行くことにした。乾季で寒いので、観光客は少ない。ヨーロッパ系の外国人が主流である。



州のシンボル「水牛」

初日の宿泊は、新しくできたモンドルキルホテルに行き、料金を尋ねるとシングルルームで十八ドル、ファミリールームは二十五ドル、温水の出る部屋は二十ドルと言ったのもう少し安いところを探すことにした。町の端にゲストハウスがあり聞けば一部屋七ドルだったのでそこにした。

ル「水牛」があり、その後ろに大変広く長い運動場のようなところがあった。運転手に聞くとモンドルキリ空港の跡地であった。カンボジアの東部、ベトナムと国境を接するモンドルキリ州は古くはクラッチェ州の一部だったが、一九六〇年代に州として区画された。シヤヌーク前国王の呼びかけで、牛や食料、居住地を提供することを条件に移住者が募られたという。

州都「センモノロム」は標高八百メートルあり、カンボジア人の避暑地にもなっている。カンボジアで人口密度の低いところでもある。プノン、クルン、チャライ、クラル、ステイアン、トヌン、クイー、トンブーンなどの少数民族が生活する。彼らは手作りの背負いかごで物を運ぶ。人口の八十％は少数民族で、農業を営んでいる。稲、イモ、トウモロコシ、バナナを栽培している。二十％のクメール人は主に公務員、商人である。町の市場に少数民族が農作物を売りにやってくるが、クメール語をしゃべり、服装も伝統的なものでなく町の人と同じスタイルで俗化している。町に戻って昼食をとる。（つづく）

（兵庫県宝塚市、理事）

現地スタッフのピン君ら
カンボジア人学生50人が来日

三重短大学生たちと記念写真

二月二十三日～三月四日、日本大使館の招きで本会スタッフのニョウ・ピン君（プノンペン大学日本語学科在籍）ほか、五十名のカンボジア人が来日した。一行は東京などを観光、グループに分かれ各県を訪問、ホームステイなどを経験した。ニョウ・ピン君のグループは三重県を訪問、真珠の養殖を見学したり、三重県内の大学生と交流した。

初めて日本の生活を体験したピン君は、「すべてにおいて整然とし、几帳面できれい好きな日本のライフスタイルに感銘を受けた」と話した。

今年は小学校の校舎が二つ完成します

本会が仲介してカンボジアに校舎を建てたのは二〇〇三年が最初だった。あれから十一年、現在二つの小学校で校舎の建設が進んでいる。会としては二十番目、二十一番目の建設事業、今まで、一年間に二校を作ってきた計算になる。本会は決して大きい会ではないが、我ながらよく二十校も作ってきたものだ。

校舎を贈る小学校の選定には苦労している。寄贈を申し出た日本人のドナーさんからすれば、せっかく作る校舎なので、現地の要望をよく聞き真に必要な場所を選んでほしいと常に念を押される。一方、校舎を要望する学校からは、その必要度がいまひとつ低いのもかわらず（すでに立派な校舎があるのに）、なにやかと理由をつけて依頼してくる。

そこをきちんと見極めることが、仲介するNGOの大きな役割である。

校舎の建設に至る審査基準は、第一に、その地域が今後発展し、校舎を利用する子どもたちが増加するか否かである。先細りの地域に作ってはもったいない。第二に、現時点で校舎が不足している、緊急度が高いかどうかの判断である。もちろん、確定するまで何度も現地に足を運び、リサーチすることが必要だ。第三は、学校の先生やその地域に住む住民たちの教育に取り組む姿勢、熱心さ。最初のリサーチにもかかわらず、校長先生が別の用事で不在だったりと、まずその段階でふるいにかかれてしまう。

この十一年間で十九の校舎を作ったが、どの校舎も愛着があり、時々校舎を訪問しては寄贈してくれた方々にレポートしている。一九校の中には、地雷原の真ん中に作った校舎あり、プノンペンから五時間かかる山の中に作っ

新校舎建設の着工式に出席
(2014年1月14日)

活動に参加しませんか

ボランティアとして

学用品を現地の学校で配布したり、子どもたちと交流して下さるツアー参加者を募集しています。ツアーは、年三回実施しています。

クメール教育里親基金

農村の貧しい子ども達が学校に行けるようにと教育資金をサポートして下さる里親会員を募集しています。サポート金額は年間三万円（分割可）です。

会員とつな

- ・個人会員（年額一〇五〇円）
- ・法人会員（年額一〇二万円）
- ・里親会員（年額三万円）
- ・会員の皆様には、隔月発行する本会の会報「アンコールワット」を発行の都度郵送します。会費の送付は、郵便振替、銀行振込み、現金書留で（郵便振替口座番号）
- 21世紀のカンボジアを支援する会（口座番号）

001300-0160916

※銀行振込をご希望の方は事務局へご一報ください。

※郵貯銀行の自動引き落としをご希望の方は事務局へご一報ください。

真珠のように輝く子供たちの瞳に出会ってみませんか？

「夢ホーム」で子どもたちと楽しい交流・里子の家庭訪問・感動的な校舎と井戸の贈呈式など

第27回カンボジアふれあいの旅 参加者募集

本旅行は観光旅行では味わうことのできない現地の子どもたちとの交流をはかることができます。特に本会が運営する児童養護施設「夢ホーム」の子どもたちが皆様をお待ちしております。あわせて、校舎や井戸の贈呈式に参加でき、思い出に残る充実した海外旅行を楽しむことができます。旅行代金も格安に設定しましたので、お気軽にご参加ください。

また、募集は原則として本会会員を対象にしておりますので、会員以外で参加される方は、事前に会員登録（一〇五,000円）が必要になります。



夢ホームの子どもたちが皆さんをお待ちしています



学校の校舎と井戸の贈呈式に参加します

- 【旅行期間】2014年7月9日（水）～15日（火）（5泊7日）
- 【募集定員】最少催行人員10名様（定員＝20名）
最少催行人員に満たない時は中止になる予定です。
- 【滞在ホテル】ダイヤモンドホテル（プノンペン）5泊（変更になることもあります）
- 【利用空港】成田空港および関西空港など
- 【旅行日程】9日＝成田空港・関西空港などから乗り継ぎにてカンボジアのプノンペン国際空港へ。
10日＝教育支援する里子の家を訪問
11日＝小学校を訪問、校舎贈呈式と井戸贈呈式
12日＝自由行動
13日＝夢ホーム訪問、セントラルマーケットで買い物
14日＝プノンペン市内観光後、夜8時頃チェックアウト⇒プノンペン国際空港から帰国の途へ（空港にての現地解散になります）
15日＝早朝、成田・関西空港などに到着
- 【旅行代金】15万円を予定。＊現地までの航空券代、空港税、ビザ申請代、現地での宿泊代、食事代、車代など、旅行にかかるほとんどの費用を含みます。
＊アンコールワット観光（日帰りオプション）＝お一人様30,000円。
＊1人部屋希望者追加料金5泊で12,000円。
＊傷害保険は各自でおかけください。

【締切日】平成26年5月10日（土）

お問い合わせ・申し込み

旅行企画☆特定非営利活動法人 21世紀のカンボジアを支援する会

〒176-0011 東京都練馬区豊玉上2-25-7-203
E-mail: info@aac21.net http://www.aac21.netTEL: 03-3991-2854
FAX: 03-3557-1213

事務局便り

■第二十六回カンボジアふれあいの旅は、理事さんらを中心に五人が参加し、無事に帰国しました。第二十七回の旅（七月九日～十五日）の参加者を募集中です。新校舎の贈呈式もありますので、ふるってご参加ください。

■沢山の皆様よりご協力をいただきました新車両（現地）の購入については、資金のめどがついたものの、免税手続きが遅れており、納車が五月～七月になる予定です。しばらくお待ちください。

五月～六月の予定

- 会報「アンコールワット」五月一日付け第七十六号発行
- 写真展「カンボジアの子どもたち」(五月二日～六日・豊洲文化センター)
- カンボジアミニツアー(五月五日～十四日)
- 写真展「カンボジアの子どもたち」(六月十六日～二十八日・JICA地球ひろば)
- 六月十六日～二十八日・JICA地球ひろば
- 会員交流会「群馬集会」(六月二十一日～二十二日・会場は未定)